

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード（ことば編）
- 3 童 謡 村の鍛冶屋
- 4 回 文 ルスヲスル
- 5 今月の詩 さむいゆうやけ 北原白秋
- 6 た し 算 順番足し算
- 7 ことわざ もぬけの殻 柳に風 焼け石に水
弓折れ矢尽く 月夜に提灯
- 8 う た わけっこのうた
- 9 俳 句 与謝蕪村 小林一茶 芥川龍之介
- 10 かぞえうた 3 畳 6 畳 9 畳 （部屋）
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた はないちもんめ
- 13 今月のうた 国名しりとり
- 14 慣 用 句 虫がいい 口を合わせる お茶を濁す
- 15 イメージトレーニング スティーム（第11話 アンドロメダ銀河M31）
（イメージしてみましよう）
- 16 おはなし かもとりごんべえ
- 17 漢 詩 遊子吟
- 18 百人一首 源宗于朝臣 順徳院 大江千里 天智天皇
- 19 復習コーナー
- 20 暗 示 （静かなところで目を閉じて聞きましょう）

ルスヲスル



るすをする



さむいゆうやけ

きたはらはくしゅう
北原白秋

ゆうやけ、こやけ、
^ひ火の^み見の^{とう}塔に
もう^ひ燈がついた。
とっとと^{はし}走ろ。

ゆうやけ、こやけ、
^{そう}雑^き木のやぶに
けぶりも^み見える。
とっとと^{はし}走ろ。

ゆうやけ、こやけ、
ゆうかんうりも
かけてく、あぜを。
とっとと^{はし}走ろ。

ゆうやけ、こやけ、
はむしよ、たつな、
^め眼のなかかゆい。
とっとと^{はし}走ろ。



ことわざ

もぬけの殻

寝床や家から人が逃げ去ってしまった後の様子。



柳に風

相手の言葉をたくみに受け流すこと。



焼け石に水

少しの援助や努力ではまったく効き目がないこと。



弓折れ矢尽く

力尽きてどうすることもできないこと。



月夜に提灯

明るい月夜に提灯をともしように、不必要で無駄なこと。



俳句

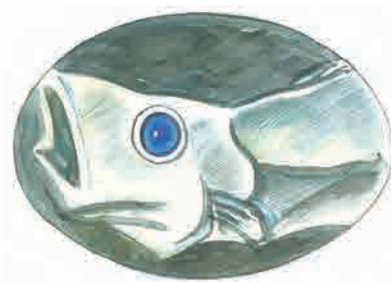
ゆきお 雪折れも き 聞こえてくらき よ 夜なるかな
よ さ ぶ さん
与 謝 蕪 村



うま そうな ゆき 雪がふうわり ふわりかな
こ ば や し い つ さ
小 林 一 茶



こ 木がらしや め ざ し 目刺にのこる う み 海のいろ
あ く た が わ り ゆ う の す け
芥 川 龍 之 介



なぜなぜ

- 1 小さな子が悲しいときにかくものはなに？
- 2 起きているときかかないで、寝ているときにかくものなに？
- 3 手じゃなくて足でかくものなに？
- 4 あついとかくものなに？

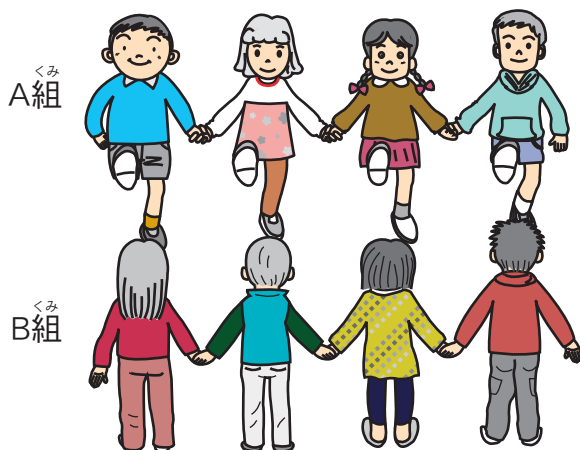


《はないちもんめ》

※ A組とB組にわかれてむかいあう。

① 〈A〉 ふるさとまとめてはないちもんめ

② 〈B〉 となりのおばさんちょっときておくれ



Aはまえにすすみ、
さいごに足をまえにける。



Aはうしろにさがる。
Bはまえにすすみ、
さいごに足をまえにける。

③ 〈A〉 おにがこわくていられない
〈B〉 おふとんかぶってちょっときておくれ

④ 〈A〉 おふとんびりびりいられない
〈B〉 おかまかぶってちょっときておくれ

⑤ 〈A〉 おかまそこぬけいられない
〈B〉 あのこがほしい

⑥ 〈A〉 あのこじゃわからん
〈B〉 このこがほしい

⑦ 〈A〉 このこじゃわからん
〈B〉 そうだんしょう

⑧ 〈A〉 そうしょう

①～②のうごきをくりかえす。

⑨



A、Bそれぞれでそうだんし、
あいての組からひとりえらぶ。
じゃんけんをして、まけた人は
あいての組にはいる。

⑩ 〈かった組〉 かってうれしいはないちもんめ
〈まけた組〉 まけてくやしいはないちもんめ

①～②のうごきをくりかえす。

今月のうた

《^{こく めい}国名しりとり》

^{くに}国の^{な まえ}名前の しりとりだ

アメリカ カナダ ^{だい かん みる くに}大韓民国

クウェート トルコ コモロ ロシア

アルジェリア アンゴラ ラオス

スイス スリランカ カタール ルーマニア

アルメニア アルバニア アラブ ブラジル

ルクセンブルク クロアチア

みんなはいくつ^し知っている？



注 ^{こく めい}国名は^{せい しき めい し ょ う}正式名称でないものもあります。

むし
虫がいい

自分に都合のよいようにばかり考える。



くち あ
口を合わせる

何人かで言うことを一致させる。



ちゃ にご
お茶を濁す

いいかげんなことを言って、その場をごまかす。

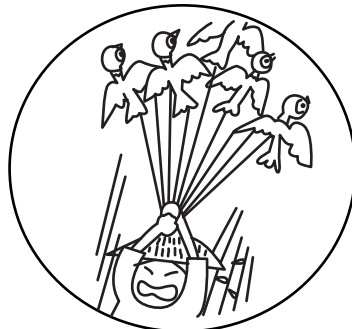
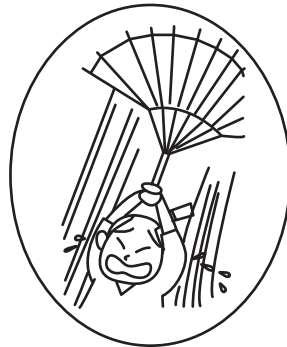


おはなし

かもとり ごんべえ

「かもとりごんべえ」は、一度に^{いち ど}百羽の^{ひゃっぱ}鴨を^{かも}つかまえようとする^{おとこ}男のお話です。
お話を聞いた^{はなし}後で、^き質問に^{あと}こたえてみましょう。

- 1 かもとりごんべえの、^{てっ ぼう}鉄砲の^{うで}腕はどうでしたか。
- 2 ごんべえは、一度に^{いち ど}百羽^{ひゃっぱ}捕^{つか}まえるために、^{ふゆ}冬になったらどうしましたか。
- 3 ごんべえは、^し知らない^{まち}町の^{みせ}どんな^{はたら}お店で働くことにしましたか。
- 4 ごんべえが^{いけ}池から^あ上がった^{とき}時、^き着物^{もの}の^{なか}中から^{なん}でてきたのは何だったのでしょうか。そしてそれは、どのくらいありましたか。
- 5 ごんべえは、^{けっ しん}どういう決心をしたのですか。



遊子吟

孟

郊

慈母 手中の線
遊子 身上的衣
行くに 臨みて 密密に縫う
意に 恐る 遅遅として 歸らんことを
誰か 言う 寸草の心
三春の 暉に 報い得んとは

山里^{やまざと}は
冬^{ふゆ}ぞ 寂^{さび}しき
人^{ひと}目^めも 草^{くさ}も
かかれぬと思^{おも}へば

(源^{みなもとのむねゆき}宗^{あそん}于朝臣)

ももしきや
古^{ふる}き 軒^{のき}端^ばの
なほあま^おりある
昔^{むかし}なりけり

(順^{じゆんとく}徳^{いん}院)

月^{つき}見^みれば
千^ち々^ちに物^{もの}こそ
わが身^み一^{ひと}つの
悲^{かな}しけれ
秋^{あき}にはあらねど

(大^{おお}江^え千^ち里^{さと})

秋^{あき}の田^たの
かりほの庵^{いお}の
わが衣^{ころも}手^では
苦^{とま}をあらみ
露^{つゆ}にぬれつつ

(天^{てん}智^{じてん}天^{のう}皇)



順徳院